

# 本興寺だより

令和七年

一月

第二六五号

「春の初めのお悦び 木に花の咲くがごとく、山に草の生出る(おいでる) がごとし、と我も人も悦び入って候」

(宗祖 上野殿御返事)

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年、県内は元日の大地震から始まりました。多くの余震をはじめ、自然災害は、私達に沢山の恩恵を与えてくれました。

日頃大自然は、私達に沢山の恩恵を与えてくれますが、一度大災害が起きると、自然界の恐さをつくづく感じさせられます。

人の一生は、自分の想いや行動だけで切り開いていくものではなく、これらの災害に遭遇して人生が大きく変わることも、また命の重みと儚さをつくづく感じさせられた気がします。

生きるということは、素晴らしいことでもありますが、辛く感じることも多々あります。人が生きる指針となるように、**仏様は多くの教を説かれています。**

**お釈迦様(Ⅱ釈尊)**は修行の最後に、**大きな菩提樹の下に座られ悟りを開かれた時、菩提樹に向かつて座っておられるのです。「樹を觀じ・・・」と經文にあります。樹霊の扶けを得たとあります。**



後夜においては、人々が、また国土世間が、それぞれの「業」(ごう善悪の行為)にに応じて変化していく姿を見られる。命あるものが、生と老と死と再生との支配を受けているありさまを明らかに觀られ、この苦悩の連鎖から逃れる方法とそれに至る道を悟られ、示されたのです。

仏様は人の命はこの世だけの存在ではなく、過去から深い「業」と、魂を向上させる課題を引き継いで、

皆、今世に生まれてきていることを忘れてはいけなないと云われます。この命は来世へも続くのです。肉体の滅は方便なのだと言華經には説かれています。

**苦悩や悩みが違うのは、人それぞれの今世での魂の修養のための課題が違うからです。**

人の生命は、自己の命のみならず、他人の命とも、また自然界の万象の命とも共鳴して生きているのだと云われます。そこには**命の生きる道(法則)があるのです。**

自然界でつながっているのは人間だけではありません。草も木も、鳥も花も、あらゆるものが生かしかされて調和しているのです。

車は道路しか走れません。船は海しか進めません。「人間」は**人の間**を生きているのです。他人にもまれ、助け合い、支え合って生きている中で、**自分の命が一番輝くのだと云われます。**

辛い時でも個人の殻に閉じこもらず現実から逃避せず、進んで社会に出て交わる生き方が大事だと云われます。

あらゆる命も、その命が発動する場も**基本は丸い**(○)のです。大宇宙も、宇宙は端が存在しない四次元上の球体である可能性が高いとも云われます。境界はありませんが、宇宙が無限に広がっているとすれば、夜空が暗いことの説明がつかないとも云われます。

天体(宇宙に存在する恒星や惑星など)もすべて丸いのです。草木も草花も、中芯は丸いです。人間の三七兆あるといわれる細胞も全て丸いのです。人が怒る



と丸い血球が△になると聞いたことがあります。水を一滴こぼしても表面張力で丸くなります。心身も一体です。**心も角を立てず、丸く生きることが大切**なのです。どこまでも、何時でも、どんな時でも、それが万象の真理ですから。

**正月の一日は、日の初め、月の初め、年の初め、春の初め**です。「二年の計は元旦にあり」。何事も年の初めの心がけが肝心です。

昨年遭遇した出来事の中で、非常に困難にあつて悩み、苦しむ事があつたとしても、それを乗り越えて、**新春を迎えられたことを素直に感謝し、喜びを感じられる心を保ち、今年にむきあいたいものです。**

本年は、**二黒土星・乙(きのと)・巳(み)へ(び年)**です。鬼門から裏鬼門までに三つの土星が揃う年となります。

このような年は星の象意からいえば、地震、土砂災害、雨など、昨年に引き続き留意して、災害が無いように祈りつつも、備えを固めておくことが大切な年とも云われます。

また体調的には、不規則な生活に起因する生活習慣病になり易く、消化器系の内臓疾患に要注意の年です。新たな年には、冒頭の文のように、春には、草木の新たな芽吹きが始まるように、自身の気持ちを一押し、自分に新たな心(生命の息吹)を吹き込み、今年も元気に過ごして欲しいものです。

合掌

本興寺住職 中谷聰秀